〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉
2017年助成団体活動成果レポート

特別助成団体

釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会

秋田県大館市

プロジェクト名

〈 深化と自立へのステップアップ 〉
Sightseeing “ひまわりの郷 釈迦内2017”

■地域の紹介

大館市は秋田県北東部に位置し、鉱石と秋田杉の美林に恵まれた都市です。大館能代空港や日本海沿岸東北自動車道などの高速交通体系の整備も進み、県北部の中心都市として発展しています。釈迦内地区は大館市の北部に位置し、大正時代のプロレタリア作家・小林多喜二の母「小林セキ」の生誕地としても知られています。豊かな自然の中に、数々の史跡や国指定天然記念物「芝谷地」、釈迦内温泉など伝統のある文化や暮らしが息づいています。

■地域の課題

① 人口減少・少子高齢化に伴い「地域に根ざして生きる力」を持った人財の育成が不足している。

② 人と人、人と社会、学校と地域などの「繋がり」が希薄になりつつある。

③ 先人が苦労して作った田畑・山林などが荒れ、「耕作放棄地」として広がっている。

■当団体の紹介

釈迦内まちづくり協議会が運営主体となり、実行組織として、「釈迦内サンフラワープロジェクト」が事務局および事業推進を担っています。2014年には博報堂教育財団が主催する「博報賞（児童教育の現場の活性化を目的に学校・団体・教育実践者を顕彰）」を受賞し、さらにその中でも優れた活動者に贈られる「文部科学大臣奨励賞」も受賞。地域活性化の取組みは高く評価されています。

プロジェクトの概要

■背景・目的は？

上記の３つの地域課題が常態化する中で、歴史を再認識し、課題解決を図る手段として、「耕作放棄地」を借り、釈迦内地区の児童・住民・企業などが一丸となって「ひまわり」を栽培し、そこからひまわり油を中心とした「商品」を開発、さらに「販売」によって地域に経済的循環をもたらすことで、地域住民すべてが未来への「希望」と「誇り」を生み出す状態を狙って活動を続けています。

■具体的な活動は？

1. ひまわり油・ひまわりドレッシングなどの通年販売活動
   ①いとくショッピングセンターを間借りしたブース販売を年間5回×(児童20名)
   ②本場大館きりたんぽまつりでのブース販売3日間×(児童30名)
   ③その他学校イベント時（学芸会など）での学校内ブース販売
2. 2018年7月28日(土)～8月5日(日)まで「ひまわりフェスティバル in 高館下」を開催。
   ①児童・地域住民が満開のひまわり畑で「アンバサダー」として来客をもてなす。
   ②児童が手作りした「リアルかかし」も展示することで、ひまわりとかかしのコラボを演出。
   ③ひまわり油やドレッシング、ひまわりアイスの販売。高見やぐらで満開のひまわり展望台。
3. 9月1日(土) 地域一斉ひまわり収穫デー。児童・父兄・教師・住民総出で収穫。
4. 収穫したひまわりを「自然乾燥」→「種取り」→「乾燥機」→「唐箕(とうみ)：選別」→「搾油」
5. ①手作り感謝状贈呈
   ②学年別に一年間の活動報告（パワーポイントを使用して）
   ③約30班に分かれ、手作り「だまこ鍋」でおもてなし
6. 春～秋にかけては、ひまわり栽培作業（種まき→除草→追肥→収穫→種取り）など。

ひまわりの植栽

イベントで販売活動

収穫したひまわり

みんなで開発した商品

テレビ局の取材を受ける

地域の交流も盛んに

児童の生きる力を育成

人々のつながりもより強く

■活動の成果は？

1. 児童はひまわりを生産→加工→販売する過程で農業の6次産業化を体感しており、「地域に根ざして生きる力」を育んでいる。
2. ひまわり畑を中心に児童・教師・住民・企業が自然につながり、地域の一体感が醸成されている。
3. 耕作放棄地の有効活用のみならず、地域の美観向上にもつながっている。
4. 地域や学校に経済的・金銭的好循環が生まれ、住民のやる気・元気にもつながっている。
5. ここ数年、「プロジェクトの視察」や「ひまわり見物」に訪れる来客が増え、交流人口の拡大とともに、地域住民・児童の「誇り」につながっている。

6. プロジェクトの講演依頼も増え、他地域に宣伝する機会が多くなると、それが結果として5の来客増加につながるという好循環につながっている。
7. 「釈迦内」＝「ひまわり」という地域のブランド化が進行している。
8. 「顔の見えるお付き合い」をうたい文句に活動してきたので、ひまわり活動によって人と人とのつながりが深まっており、結果的には防災・減災につながり、強い地域になってきている。

団体からのコメント

この度の助成金をいただいたことで余裕をもった運営ができましたし、毎年行っている活動も充実させることができました。また、懸案だった「ひまわり搾油工程の見える化」でも、搾油機械の設備資金の一部としても活用させていただいたおかげで、児童の学習にも効果をあげております。さらに新商品（ひまわりドレッシング）を開発する際のイニシャルコストにも活用できたことで、おかげ様で大変喜ばれる商品を開発でき、その後の順調な販売にも繋げることができました。
一方、住民の善意とボランティアで成り立っている活動でありますので、無理なく・楽しく活動しながら、サステナブルな活動として継続させることが何よりの目標です。
今後の展開としては、下記のような点があげられます。

- 地域住民のボランティアで成り立っているため、協力体制の維持･管理体制の強化を図る。
- プロジェクトを推進する構成員の高齢化と組織の形骸化が進むため、新しい（若い）メンバーを適時配置する。
- 同じ商品を毎年販売すると売れなくなるのは常道なので、新商品の開発と市場投入を行う。
- 無理なく･楽しく活動を続けるための最低限の自己資金を確保する。

ただ、児童の学習を中心に据えた活動でありますので、大人が先陣を切ってどんどん進めれば良いというものではなく、学校の授業カリキュラムと連動させなければなりません。販売においても、大人がどんどん売り場を作ればもっと商品販売はできるのですが、児童の販売体験が何より大切ですので、その点のバランス感覚を持った運営が必要になります。その点は経営と一緒で、思いを伝承できる人の確保と、事業継承が今後の課題と感じております。

より、そう、ちから。
東北電力
© Tohoku-Electric Power Co.,Inc. All Rights Reserved.